

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

広島県立可部高等学校
教諭 佐藤 好恵

日時： 平成 30 年 11 月 1 日(木)第 5 限 (13:25 ~ 14:15)

場所： 広島県立可部高等学校音楽教室

学年： 音楽科第 1 学年 5・6 組 25 名(男子：12 名 女子：13 名)

題材名 『クラシックギターのアンサンブルに挑戦しよう♪』

題材について

(1)題材観

本題材は、高等学校学習指導要領「音楽Ⅰ」3 内容 A 表現(2)の指導事項イ「楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること」、エ「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること」を受けて設定したものである。このような指導事項を踏まえ、本題材はギターにおける音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する能力を伸ばすことをねらいとしている。教材曲は、映画音楽「The Third Man」を扱う。

映画「The Third Man」は、第二次世界大戦後の 1949 年にロンドンで公開された。敗戦により、米英仏ソ 4 カ国に分割占領されていたウィーンを舞台とした物語で、カンヌ映画祭グランプリやアカデミー撮影賞を受賞した名作である。教材曲として取り扱うこの映画のテーマ曲は、戦争で荒廃したウィーンの街を背景として、ウィーンを象徴する民族楽器ツィターによって演奏される。白黒の画面の中、軽く跳ねるようなリズムをもつクロマティックで明るく簡明な旋律がどこかしゃれた印象を与えている。この曲は、現在まで長年、ビールの CM で使用されている。この曲のもつ軽妙なリズムと上質感の漂う雰囲気企業が側目指す上質でありながら親しみやすい商品のイメージと合致していることから起用されたと言われている。

本教材曲は、誰でも 1 度は耳にしたことのある曲であるため、器楽に苦手意識をもつ生徒も比較的スムーズに学習に導入することができる。旋律は、第 1 弦だけで演奏可能なので初心者にとって演奏しやすい。また、伴奏も開放弦と 2 フレットのみで演奏できるため、アンサンブルしやすい楽曲であることから、本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、楽器の音色と奏法に着目させ、表現方法を工夫してギターのアンサンブルをすることとした。本校では、「わかった」「できた」「使えた」この 3 つの流れを大切に自信をもたせることを大切にしている。そこで、生徒がより演奏しやすいように、伴奏において同一リズムを反復させ、奏法の特徴を生かした演奏を自ら見出すことができるよう工夫した。

(2)生徒観

本授業クラスは、歌唱及び器楽の活動について、学習経験の個人差はあるが、授業に積極的に取り組む意欲の高いクラスである。

事前の器楽に関する学習アンケートによると、生徒はこれまでに、リコーダーを基本として様々な楽器に触れているものの、ギターを演奏した経験のある生徒は 2 名であった。また、「演奏時に、何に気を付けて演奏するか」では、「間違えないこと」が 91%、「リズムの正確さ」が 84%、「演奏速度」が 72%であった。そして、「強弱の変化」は 49%、「フレーズ」は 40%、「音色」については、57%であった。生徒は、普段の演奏時において、メロディーやリズムの正確性は意識することができるが、フレーズや音色については意識することが難しい。また、「音楽用語で知っている言葉には○をつけなさい」では、「合奏」は 70%に対して、「アンサンブル」は 38%であった。このことから、今回は、経験の少ない楽

器であるギターを扱うことで弦楽器の繊細な音色に触れさせ、生徒が求める音色から奏法を考えることで音色への意識を高めさせたい。そして、4人のグループでアンサンブルを経験させることで、器楽の様々な演奏形態についての理解にもつなげたい。

本題材では、基本的な事項の深化に加えて、ギターがもつ音色に焦点をあてることで、弦のはじき方による音色の違いを感じ取る力、様々な音色から曲にあった音色を選び演奏する力、また、役割にあった奏法やテンポ設定、細かいアーティキュレーション(アクセント、スタッカート、テヌート、ビブラート等)表現を工夫する力を育成したい。

(3)指導観

指導にあたっては、4時間目までにアポヤンド奏法とアル・アイレ奏法について学習し、旋律と伴奏を演奏できるようにさせる(奏法の決まりはない)。そして、本時である5時間目で奏法の特徴を生かした伴奏(分散和音)を扱い、伴奏の役割を考えて奏法を選び、演奏を工夫する力を身につけさせたい。分散和音の弾き方は親指をアポヤンド奏法、人差し指と中指をアル・アイレ奏法とし、伴奏の役割はベース①(5・6弦)とハーモニー②(1・2弦)に分ける。既習の2つの奏法を、伴奏の役割と結びつけて考えることで、音楽を構成する3大要素に気づき、音楽に求められる要素や役割によって、奏法を変える必要性を学ばせたい。

(4)題材の目標

アンサンブルに関心を持ち、ギターの楽器の音色を知覚・感受しながら、音色にふさわしい奏法を選びとって音楽表現を工夫してアンサンブルすることができる。

(5)題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
<p>① ギターの音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② アンサンブルに関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、ギターの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>② 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、アンサンブルの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>①ギターの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能(奏法、姿勢や読譜)を身につけ、創造的に表している。</p>

(6)指導と評価の計画(全10時間)

次	学習のねらい	主な学習内容	評価			
			関	創 工	技 能	【評価基準】 評価方法
第一次 (3時間)	○ギターに関心をもち、基本的な奏法を理解する。	ギターの音色や楽器に関心を持ち、各部の名称、正しい姿勢や構え方、TAB譜の読み方など演奏に必要な基礎知識を理解することが出来る。	○			【観点1-①】 プリント
	○チューニングを行う意味を理解し、チューニング技能を身につける。	各弦の音程と音名の呼び方を確認し、チューニングをすることが出来るようになる。			○	【観点1-①】 行動観察
	○フレットを用いて「The Third Man」の旋律を演奏する。	左手の弦の押さえ方(フレットに対する指の位置・運指)を理解し、1弦だけを使って旋律を弾くことが出来る。		◎	○	【観点2-①】 【観点3-①】 行動観察
第二次 (4時間)	○アポヤンド奏法とアル・アイレの奏法の特徴を音から学びとって伴奏を演奏する。	2つの奏法の違いを、音から感じ取り、特徴を理解して伴奏を弾くことが出来る。		○	◎	【観点2-①】 行動観察 プリント
	○伴奏の役割から奏法を選び、アンサンブルする。【本時】	伴奏の役割(ベースとハーモニー)を理解して、役割にふさわしい奏法を選び、アンサンブルすることが出来る。		○	◎	【観点1-②】 行動観察
	○音の響きや音色を大切に楽曲にあった表現を工夫して演奏する。	指の角度や弦をはじく強さで変化するギターの音色を感じながら、弾き方を工夫して演奏することが出来る。		○	◎	【観点2-②】 ペア観察
	○ギターと他の弦楽器の音色等を比較し、作品の表現方法について考える。	ツィターとギターの音色等を比較し、ギターの特徴を生かした本作品の表現方法について考える。		○	◎	【観点2-①】
第三次 (3時間)	○映画「The Third Man」の鑑賞から、テーマ曲の背景を知る。	作品の鑑賞を通して、作品の背景にある歴史を学びながら、本作品が映画史に残る有名な作品となった理由、長年CMに使用される理由について考える。	○			【観点1-①】 【観点2-②】
	○アンサンブルに大切なポイントを理解し、発表会に向けて練習する。	弾き始め方・終わり方、休符の感じ方について各ペアで“きまり”をつくって演奏することができる。		○	◎	【観点2-②】 ペア観察 プリント
	○ギターの演奏会を行い、他者の演奏を味わう。	グループ(1グループ4人)ごとにギターの演奏を発表し、相互評価する。		○	◎	【観点3-①】 テスト【発表】

本時の展開（第5時）

(1)本時の目標

伴奏の役割に合わせた奏法でアンサンブルしよう。

(2)本時の評価規準

・アンサンブルに関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。

(3)学習の展開

過程	生徒の学習活動	教師の働きかけ	評価規準	評価方法
導入 10分	1 チューニングを確認し復習をする。	○前時で学んだ2つの奏法と伴奏を練習させる。 ・正しい音で伴奏が弾けているか。 ・2つの奏法の特徴の違いを簡単に復習(音・奏法)		
展開 35分	2 伴奏の役割を考える。	○伴奏とは何か、ベースとハーモニー2つの視点から考え、それぞれの役割に合うように2つの奏法を結び付けさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時のねらい♪ 伴奏の役割に合わせた奏法でアンサンブルしよう♪ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①ギターの役割を WANIMA から考えよう Kenta : ボーカル→旋律(メロディー) Ko-shin : ギター・(コーラス)→和音(ハーモニー) Fuji : ドラムス・(コーラス)→リズム この3つが音楽を構成する三大要素と確認。 その中でのギターの役目は【ハーモニー】。 ②今、弾いている伴奏を図にしてみると・・・ 伴奏→ハーモニーを担当している。 ※ハーモニーには、実はベースも含まれている。 ③演奏を聴き比べながら、ベースとハーモニーに合うように2つの奏法を結び付けよう。 ・A(長調)とB(短調)の和音を聴かせる。 →ハーモニーは曲の雰囲気をつくる役割があることに気付かせる。 ・ハーモニーの中に含まれているベースを代表生徒が弾き、前述の演奏に加えて聴かせ、A(メロ+ハーモニー)とB(メロ+ハーモニー+ベース)を聴き比べてベースの役割を考える。 →ベースはメロディーやハーモニーを支える役割に気付かせる。 </div>	観点1ー②	行動観察
	3 伴奏の役割を考えながら練習し、2つの奏法を結びつける	○班ごとにハーモニーに合う奏法を弾きながら考えて確かめ、ボードにまとめる。		行動観察
	4 役割を考えながら伴奏を弾く。 (※可能であれば録音)	○5・6弦(アポヤンド奏法),1・2弦(アル・アイレ奏法)で伴奏の役割を考えながら弾かせる。		
まとめ 5分	5 まとめをする。	○簡単に本時のまとめをする。		プリント

音楽Ⅰ選択者 アンケート

- 小学校の音楽の授業で使用したことのある楽器をすべて教えてください。

また、その楽器を使用して何人でどのような曲を演奏したか、タイトルが分かれば、教えてください。

例)木琴・鉄琴・リコーダー(4人グループでアンサンブルした) 曲名:ラバーズ コンチェルト

- 中学校の音楽の授業で使用したことのある楽器をすべて教えてください。

また、その楽器を使用してどのような曲を演奏したか、タイトルが分かれば、教えてください。

- 演奏時は、何に気を付けて演奏しますか？当てはまるものに○をつけてください。

間違えないこと (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

リズムの正確さ (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

演奏速度 (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

強弱の変化 (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

フレーズ (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

音色 (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

音色の変化 (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

伴奏との一体感 (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

他者と合っているか (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

他者とのバランス (とても・まあまあ・ふつう・あまり・まったく気にしない・よく分からない)

- 以下の用語で知っている言葉にはすべて○をつけなさい。

拍子・拍感・インテンポ・和音・T(トニック)・D(ドミナント)・根音・主音・

アインザッツ・オブリガード・ユニゾン・アウフタクト・開放弦

アンサンブル・合奏・2重奏・ソロ・音程・オクターヴ